# 丹生温州はヒリュウ台木でコンパクト樹形・収益アップ

果樹試験場

## 研究のねらい

樹勢の強い丹生温州は台木にカラタチを用いると、樹冠拡大が早く、高木化するとともに幼木時の結実が劣り、大果になります。そこで、わい性のヒリュウ台木の利用や隔年交互結実栽培を行い、コンパクトな樹形で収益の上がる栽培管理法を明らかにします。

## 研究の成果

①ヒリュウ台の樹容積は定植後5年目からカラタチ台より小さくなり、特にヒリュウ台の交互結実栽培は顕著にわい化します（図1）。

②ヒリュウ台の慣行栽培は収穫時のM～2L果率が約90％で、2L果率は交互結実栽培よりやや高くなります（図2）。

③ヒリュウ台の慣行栽培は粗収益、農業所得及び収量が優れますが、収穫、貯蔵及び出荷の作業時間は収量が多いため長くなります（図3、4）。

## 成果の活用面・留意点

①地下水位の高い平坦地では年により糖度が若干低くなることがあるため定植時の園地選定に注意します。

②ヒリュウ台は樹冠拡大が遅いため、初期収量が少ない幼木のうちは樹冠拡大に専念し、分施回数を増やし、定期的なかん水をします。

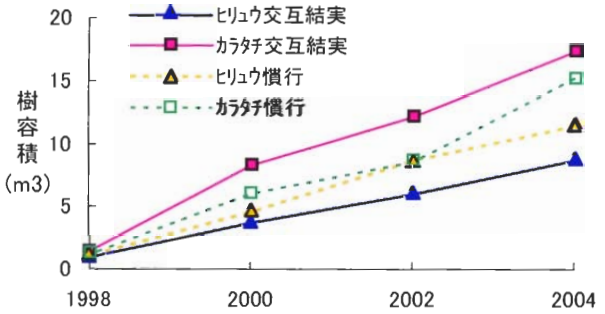


図1　樹容積の経時変化(1995年3月に2年生苗を定植)

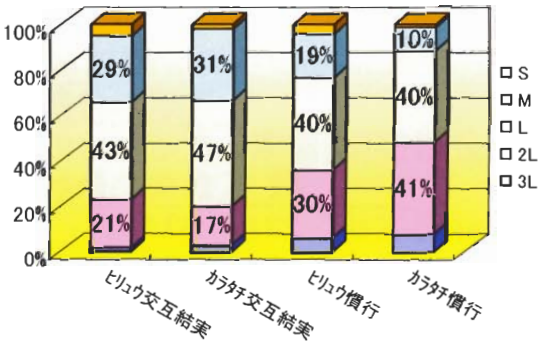


図2　収穫時の階級構成(2001～2004の平均)

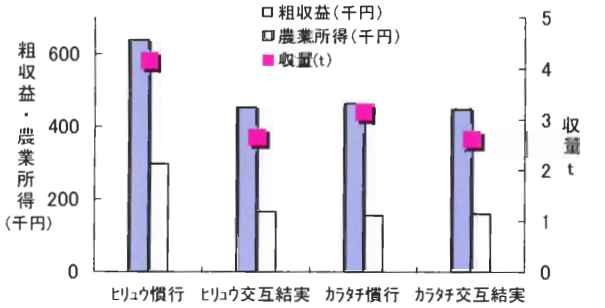


図3　10ａ当たりの粗収益、農業所得及び収量(2001～2004の平均)

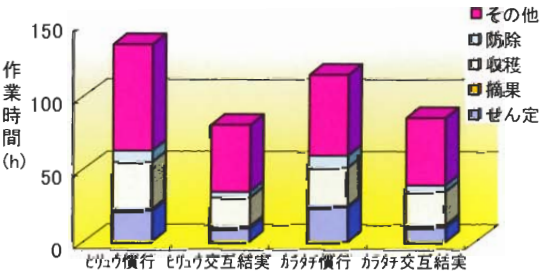


図4　10ａ当たりの年間作業時間(2001～2004の平均)